

人生の邂逅の組み立て ～ たて糸、よこ糸 ～

2023年10月27日は、『京都市立病院 緩和ケア勉強会』（主催：京都市立病院 かんわ療法委員会、がん医療連携センター）での講演『がん患者が 医療に求める対話とは』（添付）である。

10月28日は、早稲田大学エクステンションセンター中野校での講座 {【講義概要】：『がん哲学』とは、生きることの根源的な意味を考えようとする患者と、がんの発生と成長に哲学的な意味を見出そうとする医師との対話から生まれました。授業では教科書の読みあわせと解説をしつつ、受講者とのディスカッションを中心に講義をすすめます。【テキスト】：『もしも突然、がんを告知されたとしたら。』（東洋新聞社）} である。

その後、四国中央市川之江町での【がんと生きる講演会～『賢明な寛容』～不思議な出会い～】に向かう（添付）。まさに、『3連ちゃん症候群』である。

今回 四国で生まれた矢内原忠雄(1893-1961)と南原繁(1889-1974)が鮮明に思い出された。矢内原忠雄は、医者の子として四国の農村、現在の今治市に生まれ、神戸中学校から第一高等学校(東京)の法科に進学した。『一高の校長 新渡戸稲造(1862-1933)先生との出会いは、自由の精神と人格の尊厳を植え付けました。新渡戸稲造先生と内村鑑三(1862-1930)先生は、相並んで、私という人間を組み立てた、たて糸、よこ糸となっていると言っていいと思うんです。』と矢内原忠雄は語っている。

筆者が、小学生の卒業式で聴いた『ボーイズ・ビー・アンビシャス』（1877年 札幌農学校のクラーク博士:1826-1886 の言葉）の精神が、内村鑑三と新渡戸稲造へと導かれ、英文で書かれた『代表的日本人』（内村鑑三著;1908年）と『武士道』（新渡戸稲造著;1889年）は、若き日からの座右の書となった。

そして、筆者は、現在、2004年にスタートした南原繁研究会の3代目の代表を仰せつかっている。『人生の邂逅の非連続性の連続性』である。

～京都市立病院 緩和ケア勉強会～

参加無料

がん患者が 医療に求める対話とは

医療者は患者さん・ご家族に色々な情報を詳しく伝えるだけで十分だと思いませんか。実は患者さん・ご家族は医療者に距離を感じています。この隙間を「対話」というコミュニケーションでどのように埋めていくのか。患者さん・ご家族の声を聞き、寄り添いたい医療者は是非、ご参加ください。



ひの おきお
講師 **樋野 興夫** 先生

順天堂大学 名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園理事長
一般社団法人「がん哲学外来」名誉理事長
1954年島根県生まれ 医学博士

開催日 2023年10月27日(金) 午後5時30分～6時30分

会場 + Web同時配信 ※会場参加は京都市立病院職員のみです。(7階大ホール)

対象者 地域の医療従事者および京都市立病院職員

申込方法: QRコードもしくは以下のURLより必要事項を入力してお申込みください

URL: <https://forms.gle/MvTvPog53LFZGw2E9>

受付締切: 10月22日(日)



お問合せ: 京都市立病院 がん医療連携センター 担当: 佐々木
TEL 075-311-5311(内線2110) FAX 075-311-9877 E-mail renkei@kch-org.jp
主催: 京都市立病院、がん治療委員会、がん医療連携センター

予定稿

がんと生きる 講演会

『賢明な寛容』～不思議な出会い～

講師: **樋野 興夫** 氏

順天堂大学名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園理事長
一般社団法人「がん哲学外来」名誉理事長



《主な著書》 がん哲学外来へようこそ
いい覚悟で生きる～がん哲学外来から広がる言葉の処方箋

日時: 10月29日(日) 14時～15時半

*講演後、がん哲学外来カフェを開催
(カフェ参加を希望される方は、事前にお申し込みください)

会場: 川之江ふれあい交流センター

参加費: 500円

【がん哲学外来とは...】がんの発生と成長に哲学的な意味を見出し、生きることの根源的な意味を考えようとする人同士の対話の場として、2009年樋野興夫先生により始められました。



主催: 日本キリスト教団川之江教会

四国中央市川之江町1012-25 TEL: 0896-57-1773

メールによるお申込み・お問い合わせは →



後援: 四国中央市教育委員会(幹事) 社会医療法人 HITO 病院(幹事) 一般社団法人がん哲学外来